

kaneko art gallery

オープニング展 - I

2020.6.5 - 6.22

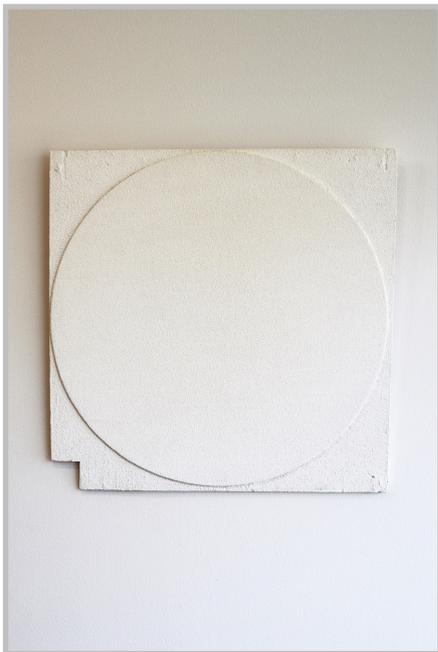
高橋 功 (Issao Takahashi)

- | | | | |
|-----------|---|-----------|--|
| 1951 | 秋田県に生まれる | <グループ展> | |
| 1975~1981 | 公立ブザンソン美術学校(フランス)で学ぶ | 1968・1969 | 秋田県立美術館 |
| 1979 | スロンクール市(フランス)美術大賞を受賞 | 1979 | 国際美術展 スロンクール(フランス) |
| 1989・1990 | 公立ブザンソン美術学校(フランス)で講師 | 1981・1983 | ブザンソン美術館(フランス) |
| 1990・1994 | フランス国文化庁より芸術研究賞を受賞 | 1981 | ソミュール劇場(フランス) |
| 1991・1994 | 油絵4枚がホートリンゲン造形美術館
(ドイツ)のコレクションとなる | 1984 | 文化センター ブザンソン(フランス)
ビエンナーレ美術館 ブザンソン(フランス)
Cimaise画廊 ブザンソン(フランス) |
| 1995 | 油絵1枚がブザンソン美術館のコレクションとなる | 1985 | Cimaise画廊 ブザンソン(フランス)
Cirey-les-Bellevaux (フランス) |
| 2003 | 油絵2枚がホートリンゲン造形美術館(ドイツ)の
コレクションとなる | 1986 | Cimaise画廊 ブザンソン(フランス)
文化の交流 ブザンソン(フランス)
Grandvell美術館 ブザンソン(フランス) |
| 2005 | ブザンソン(フランス)にて逝去 | 1987 | Chateau美術館 モンベリアー(フランス)
トリエンナーレ美術館 ブザンソン(フランス)
Dimension5 リヨン(フランス) |
| <個展> | | 1988 | Chateau de Sartiran (イタリア)
国際芸術展 ニューシャッテル(スイス)
近代美術センター ブザンソン(フランス) |
| 1982 | Clos Saint-Amour画廊 ブザンソン(フランス) | 1990~1994 | バーゼル国際芸術展 (スイス) |
| 1986 | Cimaise画廊 ブザンソン(フランス) | 1990 | Selestat美術展 (フランス)
近代美術センター ブザンソン(フランス) |
| 1989 | Mathieu画廊 ブザンソン(フランス) | 1990~1996 | フランクフルト国際芸術展 (ドイツ) |
| 1990・1992 | フランクフルト国際芸術展(Mathieu画廊と)
フランクフルト(ドイツ) | 1995~1996 | ストラスブルグ国際芸術展 (フランス) |
| 1991 | Mathieu画廊 ブザンソン(フランス) | 1996 | MACON美術館
VILLA DU PARG アムナス(フランス) |
| 1993 | Mathieu画廊 ブザンソン(フランス) | | Mathieu画廊 リヨン(フランス)
バーゼル国際芸術展 (スイス) |
| 1994 | ブザンソン美術館 ブザンソン(フランス)
造形美術館 Reutlingen(ドイツ) | | 「セレクション1996」展
かねこ・あーとギャラリー 東京(日本) |
| 1996 | Mathieu画廊 ブザンソン、リヨン(フランス)
かねこ・あーとギャラリー 東京(日本) | 1997 | NICAF TOKYO' 97 東京(日本) |
| 1998 | ギャラリー クリヨン 東京(日本)
かねこ・あーとギャラリー 東京(日本) | 1999 | 造形美術館 Reutlingen(ドイツ) |
| 1999 | Mathieu画廊 リヨン(フランス) | 1999・2000 | Paris美術展 パリ(フランス) |
| 2000 | かねこ・あーとギャラリー 東京(日本)
Cimaise画廊 ブザンソン(フランス) | 1999・2000 | Mathieu画廊 リヨン(フランス) |
| 2003 | かねこ・あーとギャラリー 東京(日本)
Weiller画廊 パリ(フランス)
Mathieu画廊 リヨン(フランス)
Bayer & Bayer Retezova チェコ(プラハ) | 2000 | Belfort-Montbeliard工芸大学(フランス) |
| | | 2001 | 菅木志雄・高橋功 2人展
かねこ・あーと 2 東京(日本) |
| | | 2002 | - 小品の試み -
高橋功・立山正一・佐々木重太郎
かねこ・あーと 2 東京(日本)
Romagny画廊 パリ(フランス)
現代美術展 プラハ(チェコ)
グループ展 ブザンソン(フランス)
ニューシャッテル(スイス) |
| | | 2003 | 秋田県立近代美術館 |

高橋 功 (Issao TAKAHASHI)



「円・黄色 NO.1」
1997年 油彩、板
63.4×31.8cm



「円と角切り／白」
2000年 油彩、板
29.7×29.7cm



「円と三つの点」
2001年 油彩、板
55.8×52.6cm

高橋功さんは長くフランスを中心に制作をつづけ2005年にブザンソン(フランス)で逝去されました。

私が高橋功さんとお会いしたのは確か2002年の「かねこ・あーとギャラリー」のグループ展のため来日されたときだったかと思います。私はその頃、オーナーであった父のアシスタントを務めてましたが、比較的寡黙な印象の高橋さんとはあまり言葉を交わすことができず、高橋さんが父と交わしている会話を横で耳にすることぐらいしかできませんでした。

高橋さんはその頃すでに病が進行し余命幾ばくもないということをおっしゃられていたように思いますが、それでも尚、制作と展示に対する意欲を身体からほとぼしるように発されていたのが印象として残っています。

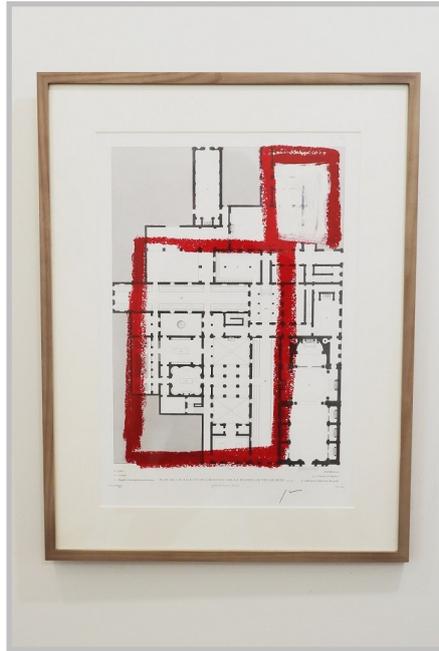
私が高橋さんの作品を鑑賞して楽しいと感じることは、板の質感と、そこに描かれる世界との対照性のようなものです。キャンバスでなく、板の上に描かれた作品世界は、板絵という古来の技法を引き継ぎつつも、現代的な美意識につよく訴えかけるものを多く含んでいます。もし高橋さんに時間がもっと残されていたとしたら、その世界観をさらに広げて、未来の人々に訴えかける作品を残されたのではないかと想像します。その一端が垣間見える作品をみなさまにもぜひご覧頂きたいと思います。

佐々木重太郎 (SASAKI Jutarō)

<略歴>

- 1955 秋田県生まれ
- 1979 武蔵野美術大学卒業
- 1980 個展 (ギャラリーTAMA)
- 1981 東京芸術大学大学院修了
- 1982 フランス政府給費留学生として渡仏
マルセイユ美術大学に学ぶ
画家ジョエル・ケルマレック、彫刻家トニー・グランに師事
- 1984 帰国
以降、神奈川県茅ヶ崎市で制作を続ける
- 2000 個展 (かねこ・あーと 2)
- 2001 個展 (かねこ・あーとギャラリー)
- 2002 - 小品の試み - 高橋功・立山正一・佐々木重太郎 (かねこ・あーと 2)
個展 / 絵と料理のコラボレーション
(湯沢文化会館内 レストラン「シェ・アラジン」)
- 2003 個展 (かねこ・あーとギャラリー)
個展 / 絵と料理のコラボレーション
(湯沢文化会館内 レストラン「シェ・アラジン」)
- 2004 - 小品の試み 2004 - (かねこ・あーとギャラリー)
個展 (T.Y. Harbor Brewery)
- 2005 個展 (かねこ・あーとギャラリー)
- 2009 グループ展 (ギャラリー SHIMIZU)
- 2010 グループ展 (ギャラリー SHIMIZU)
- 2011 個展 (KANEKO ART TOKYO)
- 2015 個展 (KANEKO ART TOKYO)
- 2018 グループ展 (ギャラリー SHIMIZU)
グループ展 (ギャラリー numART)

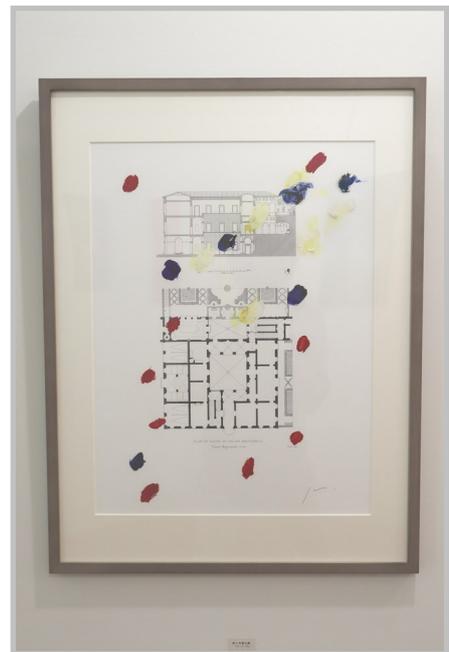
佐々木 重太郎 (Jutaro SASAKI)



「L.J - 1」
2014年 オイルスティック
62.3×47.1cm



「L.J - 1」
2014年 オイルスティック
62.3×47.1cm



「L.J - 6」
2014年 オイルスティック
62.3×47.1cm

PAUL LETAROUILLY が描いた近代ローマ
建築図面集、その簡潔な美しさに触発された
油彩スティックによるドローイングです。

佐々木 重太郎

※ 2018年 グループ展(numART)出品作です。

PAUL LETAROUILLY (1795-1855)

Paul-Marie Letaroulli (ポール・マリー・ルタルイ)。
19世紀のフランスの建築家であり彫刻家。

本書『EDIFICES DE ROME MODERNE』はエッチングによりルネッサンス建築(庭園、修道院、宮殿、教会など)の平面図、断面図、立面図、パース、そして詳細を描いたものを復刻したものである。

阿部千花世 略歴

埼玉県生まれ

1983 女子美術大学芸術学部絵画科洋画油絵 卒業

個展

- 1991 かねこ・あーとG1／東京
1992 ギャラリー+1／東京
胡椒亭／東京
1993 新世代への視点／かねこ・あーとギャラリー／東京
1994 かねこ・あーとギャラリー／東京
1996 かねこ・あーとギャラリー／東京
1997 ギャラリー日鋳／東京
2001 かねこ・あーと2／東京
2004 Gallery EL.POETA／埼玉
2006 パーソナルギャラリー地中海／東京
2011 Gallery EL.POETA／埼玉

グループ展

- 1990 仮想モニュメント '90／かねこ・あーとG1／東京
1991 Bゼミ展／横浜市民ギャラリー／神奈川
ZONE／パルテノン多摩／東京
1992 様々な平面(1) 1992／かねこ・あーとギャラリー／東京
1993 生活空間への提案(Ⅱ)／かねこ・あーとギャラリー／東京
1995 新世代への1995／かねこ・あーとギャラリー／東京
インナータイド／OTTO／神奈川
VOCA展／上野の森美術館／東京
セレクション '95～'96へ／かねこ・あーとギャラリー／東京
1996 水無月ノ水 文月ノ便り／那由他／神奈川
ちくわ・皮・耳／ホカリファインアート／東京
セレクション 1996 展／かねこ・あーとギャラリー／東京
1997 1997 Bゼミ ベネフィットエキシビジョン／ヒルサイドプラザ／東京
1998 4人の仕事 '98／かねこ・あーとギャラリー／東京
連なる扉一時のすみか／和敬塾／東京
Fujino 国際アートシンポジウム '98 夏の翼 フライラウム／県立藤野芸術の家／神奈川
フライラウム シンポジウム8イン 藤野報告／ギャラリー・オカベ／東京
3人の仕事 版画とドローイング／かねこ・あーとギャラリー／東京
'98 セレクション展／かねこ・あーとギャラリー／東京
1999 線の想像力／ギャラリーポエム／東京
インターナショナル シンポジウム バラナシ 1999 彫刻とダンス
フライラウム シンポジウム10／ABCアートギャラリー／インド
新世代の軌跡／かねこ・あーとギャラリー／東京
4人のしごと／かねこ・あーとギャラリー／東京
2000 in other eyes—それぞれのまなざし／女子美術大学 100周年記念／
女子美術大学 美術資料館 /神奈川
2001 三人の新たな試み／かねこ・あーと2／東京
2002 一小品の試みⅢ—／かねこ・あーと2／東京
2003 セレクション 2003 PART.1／かねこ・あーと2／東京
Work's 2003／横浜市民ギャラリー／神奈川
相貫するまなざし／トキ・アート・スペース／東京
2004 四人の作家展／Gallery EL.POETA／埼玉
小品の試み 2004／かねこ・あーとギャラリー／東京
2005 光りの絵画展／名古屋画廊／愛知
Feb Group Show International／Bayer ABS Limited Gallery／インド
三人の近況展／かねこ・あーとギャラリー／東京
2008 食と現代美術 part4 食堂ビル1929／Bank Art1929／神奈川
2009 フライラウム 17 イン浅草橋／マキイマサルファインアート／東京

阿部 千花世 (Chikayo ABE)



「P - 58」
2004年 油彩
33.3×24.2cm



「Drawing(8) 2005」
2005年 油彩
30.0×30.0cm



「Ata 温 - 8」
2005年 油彩
30.0×30.0cm

自分は本当に何を表現したいのかと考えていたときに、丁寧に、深く意識のなかを探ってみる行為を続けた。

ドローイングを重ねることにより、狭い自己を超え、より深いところから湧いてくる真の意志の表出を求めた。次第に意識は浄化され純化していった。P(Purification)シリーズがそれである。

ドローイングはおもに、トレーシング・ペーパーにオイルパステルを使い、直接指で描く。指で描くことにより、五感に伝わってくるものを感じたいと思っている。オイルパステルはトレーシング・ペーパーの上を心地よく滑る。

今回、展示している作品は、ドローイングをもとに油絵で描いたものである。

阿部千花世

徳永 雅之

- 1960 長崎県佐世保市生まれ
1985 東京芸術大学美術学部絵画科油画専攻卒業
1987 東京芸術大学大学院美術研究科(修士課程)壁画専攻修了

<主な個展>

- 1991 かねこ・あーとG1 (東京)
ギャラリー美遊 (東京)
1994 ギャラリーなつか (東京)
かねこ・あーとギャラリー「新世代への視点'94」(東京)
1997 かねこ・あーとギャラリー (東京)
1998 ギャラリー日鉦「SEQUENCE」(東京)
2002 かねこ・あーとギャラリー (東京)
2004 庭園ギャラリー櫻守 (埼玉)
2008 GALLERY APA (名古屋)
2011 ギャラリー健「The Scene of Light」(埼玉)
2012 「The Scene of Light」KTNギャラリー (長崎)
2014 ART TRACE GALLERY (東京)
2016 ぎやらりー由芽 (東京)
2017 ナガノオルタナティブ 2017_01「Scene of Light」FLAT FILE SLASH (長野)
2018 Gallery 美の舎 (東京)
ギャラリー枝香庵 (東京)
2019 美容室cotton (埼玉)
Shell102 (東京)

<主なグループ展>

- 1995 「やわらかく重く」/ 埼玉県立近代美術館 (埼玉) / ライフギャラリー・オハイオ (95-96)
1996 「VOCA展'96」/ 上野の森美術館 (東京)
1998 「曖昧なる境界-映像としてのアート」/ O美術館 (東京)
1999 「新世代の軌跡」/ かねこ・あーと2 (東京)
2001 「光とその表現展」/ 練馬区立美術館 (東京)
2003 「2003両洋の眼展」/ 松坂屋美術館(名古屋)他 (~2004)
2004 「色の博物誌・黄 地の力&空の光」/ 目黒区美術館
2005 「2005両洋の眼展」日本橋三越本店 (東京) 他
2008 「PVAF」(スコットランド)
2009 「MY Interaction 2009 大久保宏美 徳永雅之」Shonandai My Gallery (東京)
「二つの扉」徳永雅之+馬場健太郎 Galleryエル・ポエタ / 庭園ギャラリー櫻守 (さいたま)
2012 こづま美千子 + 高津美絵 + 徳永雅之「絵画から」ギャラリーなつか (東京)
2014 「絵画と彫刻 徳永雅之×エサントモコ」ぎやらりー由芽・ぎやらりー由芽のつづき (東京)
2015 「形象への眼差し、光景への眺め」アートトレイスギャラリー (東京)
2016 「広がる光・育ってゆく断片」徳永雅之×久木田茜 ぎやらりー由芽のつづき (東京)
2017 「どこかでお会いしましたね 2017」うらわ美術館 (埼玉)
2018 「いまそこにあるなにか」FEI ARTMUSEUM YOKOHAMA (神奈川)
2019 「どこかでお会いしましたね 2019」埼玉会館 (埼玉)

<パブリックコレクション>

- 2000 特別養護老人ホーム「さくら」エントランスホール壁画制作 (東京)
2001 エンターテインメントクルーズ船「ROYAL WING」(神奈川)
2004 日本サムスン株式会社(プライベートコレクション) (東京)
2008 パークハイアット上海
2017 ソラリア西鉄ホテル京都プレミア三条鴨川

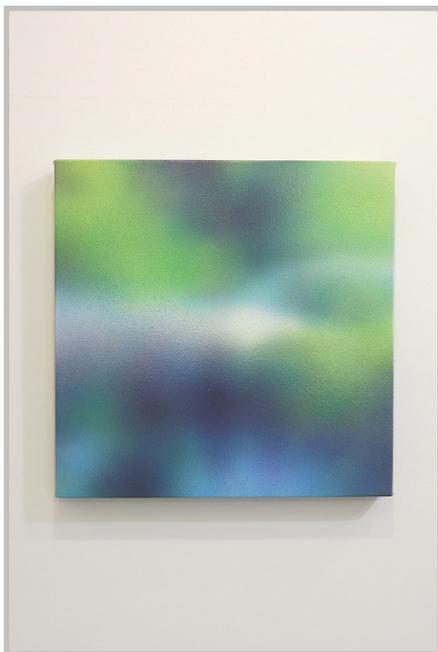
<著書>

- 2008 「Tayutau テルミンの小品と光の絵画 溝口竜也+徳永雅之」(共著) / 冬青社

徳永 雅之 (Masayuki TOKUNAGA)



「t-15」
2019年 アクリル
水性アルキド樹脂絵の具
エアブラシ
65.0×41.0cm



「t-03」
2017年 アクリル
水性アルキド樹脂絵の具
エアブラシ
30.0×30.0cm



「t-16」
2019年 アクリル
水性アルキド樹脂絵の具
エアブラシ
45.0×38.0cm

見る事、見える事。網膜に映された像の多くは、その人にとって意味を持つ形として脳で処理されます。一方、網膜を通さず、脳で再生されるイメージは「見る」という言葉こそ使いませんが、そこには何らかの意味のある形があり色を感じています。

私の作品と観覧者の関係は何かを見たり、眺めていたり、思い出したりしている「その時」に人の中で起こっている事と繋がっています。

現実の世界との最小限の接点として、光や空間のようなものを意識して描いているのですが、具体的なモチーフは私の頭の中には存在していません。

曖昧であるものを私は肯定したい。何ものでもないが何かでもありうるものは普遍的な力を持つと信じています。アーティストによって作られた作品は、人の目に触れ、彼らの中で化学変化を起こす事で物質からアートになって行きます。

制作の手段として、私はエアブラシを使っています。重さとか触覚的なものが希薄な画面を作りやすいのが長年使っている理由だと思います。吹き付けられた粒子は時間が経つと霧のように蒸発してしまいそうです。重力や触覚をあまり感じない吹付けで描かれた表現は、人の記憶の中でしか見ることの出来ない映像と似ているかもしれません。

徳永雅之